ちょっと名大史

204

創立80周年 ― 名古屋帝国大学が創立された日の新聞報道 ―

今からちょうど80年前の1939年（昭和14）年4月1日、名古屋帝国大学（名帝大）が創立されました。この日、名古屋で印刷された新聞各紙は、戦時中で戦争関係の記事が優先されるなか、これを大きく報じました。

とりわけ多くの紙面を割いたのが、代表的な地元紙である名古屋新聞（中日新聞の前身の1つ）でした。同紙は朝刊に、「名古屋帝国大学の創設」と題する社説を載せました。その次の面でも、「けふの特輯（とくしゅう）」として名帝大の創立を報じ（記事1）、さらに市内版（名古屋）の欄にも記事が見られます。夕刊にも創立当日の様子が報じられました（記事2）。そのほか、大阪朝日新聞、大阪毎日新聞、読売新聞といった全国紙の名古屋版も大きなニュースとして取り上げています（記事3～5）。

各紙の記事の内容はおおむね共通しています。まず際立つのが、名帝大の創立が東海や名古屋の文化や産業の発展に大きな画期をもたらすものであるという評価です。そして、創立費900万円の全額を愛知県が負担（国に寄附）したことなど、県民待望の事業であることが強調されています。900万円は、1939年度の愛知県一般会計歳出総額の約2割に相当する額です。

また、政府との様々な折衝に奔走した田中広太郎愛知県知事の功績を高く評価する記事も目立ちます。その田中知事が、創立の感想を述べるにあたって、得意の短歌を披露したと各紙が報じています。「あがたたみ　心ひとつにはぐくみし　花もくはへて春いよよ栄ゆ」。「あがたたみ」とは県民のことです。

1

2

3

4

5

1 『名古屋新聞』4月1日付朝刊の記事。書き出しは「時局に産ぶ声をあげる九百万円の“晴れ姿”」。

2 『名古屋新聞』4月2日付夕刊（当時の新聞の慣行として、夕刊は実際の印刷日の翌日の日付が付された）の記事。「交換嬢」とは、電話交換手の女性のこと。

3 『大阪朝日新聞』（名古屋支社版）4月2日付夕刊の記事。同紙は名古屋支社が独自に編集・発行していた。

4 『大阪毎日新聞』（名古屋総局版）4月1日付朝刊（「市内版」の欄）。写真は、鶴舞の医学部正門（左、門柱は現存）と名古屋市東区西二葉町（現在の県立明和高校の辺り）の理工学部仮校舎（右）。

5 『読売新聞』（名古屋版）4月1日付朝刊。読売は、朝日や毎日のような全紙面にわたる名古屋版はないが、朝刊の最終面のみを名古屋支局が「中京読売」として編集していた。写真は、名帝大仮本部が置かれた愛知県庁の南玄関に標札が掲げられているところ。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内

Nagoya University 80th Anniversary 1939-2019

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）にお願いいたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

名古屋大学基金　http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/　アクセスはこちらから▶

特定基金

名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。